

10. 解答 e

- a. 誤 第4脳室，側脳室下角の拡大は見られない。
- b. 誤 脳溝や脳室壁に増強効果は見られない。
- c. 誤 硬膜の肥厚や増強効果は見られない。問題9参照。
- d. 誤 腫瘤状の増強効果は認められない。
- e. 正 左側頭葉にみられる索状の造影増強効果は拡張した血管構造と考えられる。左横静脈洞の前内側の構造物も導出静脈の一部か。静脈洞血栓や皮下血管の拡張もあまり目立たないが，選択肢としてはこれしか残らない。

11. 解答 e

- a. b. 誤 脊髓の腫大はなく，両側に広がる病変で，腫瘍は考えにくい。
- c. 誤 脊髓の腫大はなく，脊髓中心近くの異常信号域はみられない。
- d. 誤 上下に長い病変で，左右対称性の病変である。年齢からしても考えにくい。
- e. 正 両側の後索に沿ったT2強調画像での高信号域がみられる。病歴も併せて典型例と考えられる。

12. 解答 c d

- c d. 正 径5mm以上あるようなので，何らかの治療が必要とされる。
c, dのどちらを選択するかは術者の判断による。この際は後床突起からの距離が関与する。
- a. 誤 全身状態には問題はなさそうなので。
- b e. 誤 適応外。

13. 解答 c

- a. 誤 動脈よりも増強効果は弱く，連続性はない。
- b. 誤 内部は均一で，増強効果も均一である。
- c. 正 内頸・外頸動脈分岐部に存在する腫瘤で，強く均一な増強効果を示す腫瘤。
- d. 誤 形状からの鑑別は困難であるが，頸動脈間隙の病変であり，考えにくい。
- e. 誤 頸動脈間隙の病変であり，内部も均一に増強されており，考えにくい。

14. 解答 a e

- a. 正 拡散強調画像で高信号を示す鼓室内（腹側）の軟部組織が真珠腫。
- b. 誤 蝸牛，前庭周囲の異常信号域はみられない。
- c. 誤 異常軟部組織内の石灰化など，MRIでの診断は困難。
- d. 誤 顔面神経の走行に一致した腫瘤ではない。
- e. 正 乳突洞内のT1，T2強調画像ともに高信号を示す領域（中央）がコレステリン肉芽腫に相当する。

以上、解答10～14は矢野貴徳会員（宮崎大学医学部）